

県北支部便り

発行責任者 紺野芳男
発行者 事務局

第2回さんよ会開催

平成30年6月30日大原総合病院会議室において講師に須賀川市立仁井田中学校校長湯田公夫先生をお迎えして「叱り方、叱られ方」と称し講演会が開催されました。

さんよ会「叱り方、叱られ方」に参加して

6月30日に開催された第2回さんよ会。今回は、職場での「コミュニケーション」に不安を抱える方がどの職場にも少なくないことから、「上司、部下とのコミュニケーションに特化した研修会を企画しました。社会には「叱る（または叱られるとき）が」「コミュニケーションにおいて最も神経を使い、「出来れば避けたい」「誰しもが思う事」だと思います。しかし、仕事をしていく上で



誰もが指導する（または指導される）立場になり、多かれ少なかれ避けて通ることはできません。そこで、教育の現場に立つ「教師」の目線から、「叱り方、叱られ方」を学ぶ事にしました。今回の講師は、中学時代の恩師で現在須賀川市立仁井田中学校の校長をされている湯田公夫先生に依頼しました。私の主観ではありませんが、湯田先生は常に生徒の目線に立って教育に当たり、生徒が良い方向に向かうためには、どんな協力努力も惜しまない先生で、今回の内容には適任だなぁと思う、推薦しました。

先生の講義スタイルは、私が中学校で授業を受けた当時さながら、時折ユーモアを交えながら、全員参加型の実習を取り入れたもので、叱るときは、どのような場面でも、どんな言葉で伝えるか。叱りやすい人とそうでない人ではどんな特徴があるかなど、具体的な内容を想定しながら、様々なケースを想定させられる内容でした。講義の最後、先生のお話で最も印象に残った部分があります。

「怒りが噴出すマグマだとすれば、叱ることは湧き出ている温泉のようなもの。怒りの感情をぶつけるのではなく、温泉のように相手を温めてあげよう。そんな気持ちで叱ってあげてはいかがでしょうか。」

私自身も、改めて「叱る（叱られる）」ことを考えさせられました。まだまだ指導される立場である一方、これからますます後輩（部下）が増え、指導する機会も多くなってくると思います。相手の立場を尊重し、お互いが良い方向に向かっているような「叱り方、叱られ方」ができるよう、今回の研修で得たものを活かしていきたいと思えます。

さんよ会世話人 福島医大 半沢 雄助



県北支部便り

発行責任者 紺野芳男
発行者 事務局



県北支部暑氣払い

平成30年6月30日、ストロ波兵において県北支部暑氣払いが開催されました。さんよ会研修会に引き続き講演をお願いした湯田先生も参加してくださいとさりわきあいあい楽しい時間を共有することが出来ました。



「ただ、ただ楽しかった。」「明日からつかえるー」「やーんよかたーさんよ会」

さんよ会の中核となる年代と20代の若者に仕事の楽しみを感じてもらえるように始めた会です。当然検査技師のスキルよりも人間性、協調性、忍耐力、常識など「社会人としての要素が強くなります。そのような中で、今回のテーマ『前向きになる呪い方叱られかた』と題して2回目のさんよ会を企画しました。さんよ会はグループプレゼン形式の会のため、ベテラン技師（技師長）などが参加したら、若者は本音で話すことは厳しく参加者が少ないと予想していました。実際は300名もの参加者があり、20〜40歳代は75%（20代約30%、30代約35%）を占めていたことをうれしく思いました。湯田先生の講演はわかりやすくかつ親しみがあり、参加者を引きつけ、グループプレゼンもさっくばらんに話げできたこと当初感じていた不安はなくなりました。研修会に引き続き行われた暑氣払いには、参加者の8割の方が参加し、交流を深めることができたこと自負しております。技師会の暑氣払いについては、さんよ会の懇親会という印象が強く、『さんよ会』からそのままの流れの懇親会という感じでした。研修会の準備も、実務委員をはじめ藤野さん、菅野茂さんのご尽力もあり、並田もいい加減な私をほっといて皆が動いている姿はチームワークの良さであることを証明していると思えました。また、実務委員の仁徳もあり良い講師に巡り合えたと感じています。また技師会が協力してくれたことで生涯教育の点数もぐんぐんは大きなメリットと捉えます。

やりたいようにやれている現状と技師会が協力してくれるメリットを活かして今後も県北支部では福島県内の技師が楽しみながら業務に携われるような企画を考えていきたいと思っております。

さんよ会世話人 わたり病院 山田 太一





県北支部便り

発行責任者 紺野芳男

発行者 事務局



事務局よりお詫び

暑気払いの記事のはずが秋を通り過ぎ、辺りが白くなる冬となってしまいました。原稿を下された半沢様、山田様『ごめんなさい。』 それと写真にあまり写っていない参加者の皆様『ごめんなさい。』